

記者発表資料

平成31年 1月30日
九州地方整備局
大分河川国道事務所

大分県初 道の駅『ゆふいん』が 重点「道の駅」に選定されました！

～地域創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた取組を選定し、重点的に応援する重点「道の駅」の取組を実施しています。

九州では、これまで重点道の駅として7箇所が選定されており、今回3箇所が新たに選定されました。大分県では初めて、道の駅「ゆふいん」が選定されましたのでお知らせします。

※全国及び九州の重点「道の駅」選定については、次項以降の記者発表資料をご確認下さい。

お問い合わせ先：国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所



道路副所長 ふじわら ふみたけ 藤原 史武
調査第二課長 たかた えいじ 高田 英二

大分市西大道1-1-71 TEL:097-544-4167 (代表)

ホームページ：<http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/>

ツイッター：https://twitter.com/mlit_oita

平成 31 年 1 月 30 日
九州地方整備局九州の「道の駅」3箇所 新たに**重点「道の駅」**に選定！！

～ 地方創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します ～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた企画を選定し、重点的に応援する重点「道の駅」の取組を実施しています。

九州地方整備局管内では新たに重点「道の駅」として**3箇所**、重点「道の駅」候補として**1箇所**を選定しましたのでお知らせします。

○重点「道の駅」《国土交通大臣選定》

今後の施設整備に向け、駐車場や休憩施設等は社会資本整備総合交付金等で重点支援するとともに、自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等についてワンストップで相談できる体制を構築するなど、ハード・ソフト両面から支援。

●熊本県 ^{なごみ} 和水町 道の駅「きくすい」●大分県 ^{ゆふ} 由布市 道の駅「ゆふいん」●鹿児島県 ^{あまみ} 奄美市 ^{すみよう} 道の駅「奄美大島住用」**○重点「道の駅」候補《九州地方整備局長選定》**

自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等についてワンストップで相談できる体制を構築するなど、主にソフト面から支援。

●長崎県 ^{ひらど} 平戸市 ^{いきつき} 道の駅「生月大橋」

<問い合わせ先>

国土交通省 九州地方整備局 道路部 道路情報管理官
交通対策課長^{おぐしとしゆき}
小串俊幸
^{ながとししんたろう}
永利信太郎

電話番号：092-471-6331(代表)

九州地方整備局管内「道の駅」位置図



○重点「道の駅」選定駅（3箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
1	熊本県	和水町	きくすい	<ul style="list-style-type: none"> ○広域からの玄関口として、周辺観光地と連携して観光情報発信や観光ツアー斡旋等の広域的な観光振興を先導 ○自然の中でのアウトドアスポーツや“いだてん”に因んだマラソン大会開催等家族やグループでスポーツを楽しむ ○子育て世代や高齢者が入浴施設でのリフレッシュ等を通じて集い、交流し地域が支えコミュニティを形成する
2	大分県	由布市	ゆふいん	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅・道守大分会議・日本風景街道が連携した「三つの輪」と協働し、交流機会の向上を図る ○子育て支援として、一時預かり機能や授乳室等の整備を図る ○外国人観光客に配慮し、JNTO案内所としての質的向上を図る
3	鹿児島県	奄美市	奄美大島住用	<ul style="list-style-type: none"> ○「奄美大島唯一の道の駅」、奄美大島の観光情報・道路情報等の広域的な情報・更なるサービス向上 ○奄美大島の「国立公園化・世界自然遺産登録」を目指し、増加する外国人観光客対応への機能拡充

○重点「道の駅」候補 選定駅（1箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
1	長崎県	平戸市	生月大橋	<ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産、風景街道・道守と連携し、自然景観を活かした交流拠点施設として整備する ○漁業振興を目指し地場製品の販売強化と新規商品を開発する ○顧客ニーズを捉えたフードコートを設置する

道の駅「きくすい」(熊本県和水町) 企画概要 <既設>

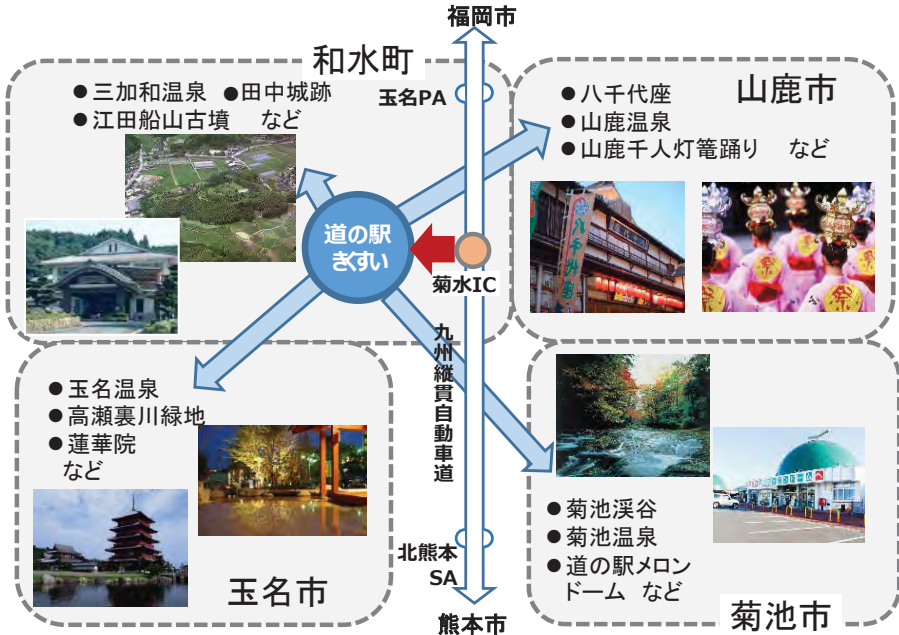
H30重点

キタクマ※の一体的な観光振興と地域の定住魅力を高める拠点として

- 広域からの玄関口として、周辺観光地と連携して観光情報発信や観光ツアー斡旋等の広域的な観光振興を先導
- 自然の中でのアウトドアスポーツや“いだてん”に因んだマラソン大会開催等家族やグループでスポーツを楽しむ
- 子育て世代や高齢者が入浴施設でのリフレッシュ等を通じて集い、交流し地域が支えコミュニティを形成する

※キタクマは熊本県北の 和水町、玉名市、山鹿市、菊池市からなるエリアの略称

次世代観光拠点 熊本県北のゲートウェイとしてインバウンド対応型の観光情報案内、野外スポーツ体験、スポーツ大会	道守との連携 風景街道、道守等と連携し、施設や沿道の美化活動を後方支援	高速道路との連携 IC近傍を活かしたSA・PAでの入浴休憩案内サービス、防災機能の強化	子育て応援 子育て世代への休憩機能や集落からの接続サービス性の向上
--	---	---	---



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
きくすい	熊本県	和水町	主要地方道 玉名山鹿線	既設	平成7年	一体型



<提案の先駆性・ポイント>

- 外国人にも対応可能な観光案内、北熊本の観光情報提供や観光ツアーの斡旋等によりインバンド観光も見据えた宿泊型広域周遊観光を促進
- 自然の中でアウトドアスポーツ、キャンプ、スポーツ大会等のスポーツを楽しむ、リフレッシュし健康増進を図る
- 菊水ICからの近接性を活かし、高速道利用者が入浴し、ゆったりと休憩できる休憩案内サービス、防災機能の強化
- 子育て世代にやさしく、いつでも立ち寄りやすい地域コミュニティ拠点の形成

<実施内容>

- 「菊池川流域日本遺産」を生かした多言語音声ガイドシステム、外国人対応可能な案内スタッフ配置、情報・交流施設(総合窓口案内所)の改修
- 災害時に機能するRV駐車場の拡大、キャンピングカー・古民家(空き家)を活用した宿泊体験、カヌー・サップ等のスポーツ体験の提供
- 九州自動車道玉名PA、北熊本SAへの入浴休憩サービス情報案内、防災情報の発信や防災広場としての活用
- おでかけ交通あいのりくんの利用促進に向けた待合所の整備、施設回りや周辺農地への大規模花植え、子育て世代向け各種イベント等の開催

道の駅「ゆふいん」

大分県由布市

- 道の駅・道守大分会議・日本風景街道が連携した「三つの輪」と協働し、交流機会の向上を図る。
- 子育て支援として、一時預かり機能や授乳室等の整備を図る。
- 外国人観光客に配慮し、JNTO案内所としての質的向上を図る。

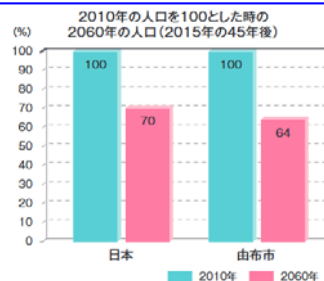


道の駅「ゆふいん」

交流 「三つの輪」との連携	子育て支援 子育て支援環境の充実	観光 情報発信機能の強化
------------------	---------------------	-----------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ゆふいん	大分県	由布市	一般国道210号 県道別府湯布院線	既設	平成15年度	一体型

【人口減少が進む由布市】
50年後、人口が4割減、全国値を下回る



新しい人の流れ・交流促進



「三つの輪」による道の駅「ゆふいん」に造成した「おもてなし花壇」

子育て支援に資する「道の駅」



観光情報の質的向上を図る「道の駅」



<提案の先駆性・ポイント>

- 「道守大分会議」「風景街道」「道の駅」で形成される「三つの輪」と協働し、駅内の花壇造成等、多様な主体や世代の交流向上に努める
- 子育て支援環境充実のため、施設整備等を推進する
- 交通結節機能を有する道の駅として、多様なトリップの利用者に資する道路情報や休憩者のための地元観光情報の提供
- 増加する外国人来訪者への対応として、JNTOカテゴリ-2を目指す。また留学生を活用し、SNS等を用いて積極的な外部発信を行う。さらに、風景街道「九州横断の道やまなみハイウェイ」沿線の観光地への情報発信強化を行う

<実施内容>

- 「三つの輪」として協働し交流機会を拡大
- 定住及び移住推進事業の案内窓口設置
- 子育て支援として、子育て交流コーナー、一時預かりの機能、授乳室等の整備
- 外国人案内の質的向上、SNSの活用、風景街道沿線観光地の情報提供、近傍から遠方と幅広い区間の情報提供、由布市観光インフォメーションセンターとの連携

- 奄美大島インバウンド観光拠点の創生 ～外国人観光客が安心して訪れる「道の駅」としての機能拡充～
- 「奄美大島唯一の道の駅」、奄美大島の観光情報・道路情報等の広域的な情報・更なるサービス向上
 - 奄美大島の「国立公園化・世界自然遺産登録」を目指し、増加する外国人観光客対応への機能拡充

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

インバウンド観光
外国人観光客への安心な案内提供

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
奄美大島住用	鹿児島県	奄美市	国道58号	既設	平成12年	一体型



豪華客船の寄港による外国人観光客
(道の駅はオプションツアーの定番コース)



マングローブ原生林
大好評のカヌーツーリング



黒糖焼酎は奄美だけの特産品
多くの皆様に愛飲されています



寄港数	乗船人数	うち外国人数
14隻	20,190人	17,000人

※平成30年4月～10月末
<提案の先駆性・ポイント>

奄美大島唯一の「道の駅」国道58号の中間
拠点として、地域のゲートウェイとして機能

<実施内容>

- ODMO候補法人と連携し体験プログラムの発掘とガイドの育成
- 世界自然遺産センターと併設した整備等により、インバウンド促進の観光拠点化
- 外国語対応の強化(JNTOカテゴリーⅡ認定、外国語対応スタッフの雇用、特例通訳案内士の育成、多言語案内表示の設置)
- 免税店の併設・外国発行クレジットカード電子決済対応
- 沖縄では絶命したリュウキュウアユの人工ふ化や、河川での産卵床の造成・天然リュウキュウアユの観察会の開催

- 奄美群島国立公園特別保護地区であるマングローブ原生林等の貴重な地域資源を活用した自然回帰型の道の駅であり、「世界自然遺産登録」を目指している。
- 奄美大島への大型観光船寄港の増加や、国立公園化、世界自然遺産登録を控え、今後も外国人観光客の大幅な増加が予想され、遺産効果を生かした満足度の向上に努め着地型観光や観光案内等への外国語対応・免税店の併設・外国発行クレジットカード対応等の機能拡充を行い、インバウンド観光のさらなるサービス向上を図る。

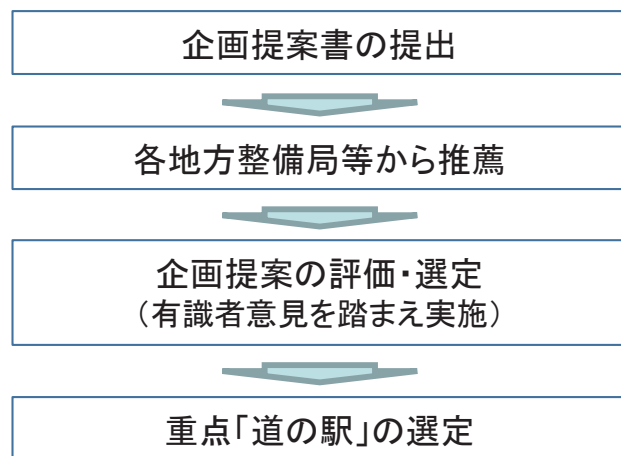
<参考>平成30年度「重点道の駅」公募概要

公募概要

- 地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を公募
- 優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるものを選定

公募期間と選定の流れ

- 平成30年10月5日(金)～10月25日(木)



- 「重点道の駅」は全国で15箇所、「重点道の駅候補」は全国で14箇所を選定

支援内容

<ハード的な支援>

- 道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、社会資本整備総合交付金(直轄国道以外)及び交通安全施設等整備事業(直轄国道)の重点配分等により国交省が支援

<ソフト的な支援>

- 自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制を構築。

選定にあたり優先的に評価する事項

- 重点「道の駅」候補からの企画提案
- 以下に関する企画提案
 - ・新たな観光拠点の形成(DMOとの連携、インバウンド観光)
 - ・風景街道・道守との連携
 - ・高速道路との連携
 - ・子育て応援

その他

- 計画的な企画検討を促進する観点から、今後は毎年、公募を実施することを想定

平成 31 年 1 月 30 日
道路局 企画課

重点「道の駅」新たに15箇所を選定しました！
～地方創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた企画を選定し、重点的に応援する重点「道の駅」の取組を平成26年度から実施しています。

平成30年度は、地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を募集し、29件の応募がありました。

この度、企画提案内容を確認し、有識者等のご意見を踏まえ、重点「道の駅」及び重点「道の駅」候補を選定しました。

1. 選定結果

①重点「道の駅」(国土交通大臣選定): 15箇所

今後の施設整備に向け、駐車場や休憩施設等は社会資本整備総合交付金等で重点支援するとともに、自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等についてワンストップで相談できる体制を構築するなど、ハード・ソフト両面から支援

②重点「道の駅」候補(地方整備局長選定): 14箇所

自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等についてワンストップで相談できる体制を構築するなど、主にソフト面から支援。

2. 今後の予定

- ・ 次回については、2019年夏頃から、約2～3ヶ月間の公募期間を設定のうえ、選定する予定です。
- ・ なお、具体の公募内容は、今後の「道の駅」の新たなステージに関する有識者からの意見を踏まえ、検討します。

<問い合わせ先>

国土交通省 道路局 企画課 しのだ むねすみ まつざき あきら 篠田 宗純・松崎 暁(内線:37552、37558)
代表(03)5253-8111 直通(03)5253-8485 FAX(03)5253-1618

平成30年度 重点「道の駅」選定結果

凡例

- 重点「道の駅」(15箇所)
- 重点「道の駅」候補(14箇所)



平成30年度 重点「道の駅」選定駅（15箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
1	北海道	留萌市	るもい船場公園(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ○高速道路の終点インターチェンジや中心市街地に近接する立地環境を活かし、高速バス、周辺自治体や市内観光スポットに連絡する路線バス等を集約し、交通結節機能を強化 ○シーニックバイウェイ(日本風景街道)や地元高校、農家等と連携し、観光情報発信や商品開発 ○都市公園の環境・施設を活用した子育て環境の創出
2	北海道	弟子屈町	摩周温泉	<ul style="list-style-type: none"> ○道東地域観光の玄関口の役割を担うとともに、多様化する旅行ニーズに対応するため、シーニックバイウェイ(日本風景街道)や周辺自治体と連携することで、観光情報や地域情報の収集・発信を行う広域的な情報発信拠点とする ○インバウンド観光客の受入体制及び情報発信のさらなる強化を図る ○厳冬期の暴風雪害時の一時避難場所として、災害情報提供の強化を行い、防災拠点として機能向上を図る
3	青森県	七戸町	しちのへ	<ul style="list-style-type: none"> ○十和田奥入瀬観光のゲートウェイとして、地域DMOと連携した滞在型インバウンド観光等の商品開発 ○農業体験や民泊ができる旅行商品の開発により、都市部向けの「七戸ブランド」(長芋・にんにく等)の販路拡大 ○子育て世代、若い世代の交流できる環境づくりにより、就業の場の創出、利用しやすい道の駅を目指す
4	茨城県	潮来市	いたこ	<ul style="list-style-type: none"> ○DMOと連携しスポーツツーリズムの取組を通じ、道の駅を拠点とした周辺市への観光の周遊化を図り、インバウンド観光の効果を広域的に活性化させる ○風景街道の利用拠点と道の駅を双方向で誘導させ、地域内でも面的に観光振興を行う ○平常時はもとより、災害時においても、子育て世代の安心と安全を応援する
5	千葉県	柏市	しょうなん	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅を「都市部と農村部とを繋ぐエントランスパーク(入口)」とし、「集客」「販売」「地域の情報発信」を行う ○道の駅に「地域の主要産業である農業を振興」させる機能を強化 ○道の駅で「来訪者の地域交流」を促進する機能の強化
6	新潟県	糸魚川市	能生	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の2つの日本風景街道との連携により、次世代観光拠点の形成やサイクリング拠点化を推進 ○地域・産学連携等により機能充実を図り、地域の核となる「道の駅」に向けた環境整備を実施
7	愛知県	日進市	(仮称) につしん	<ul style="list-style-type: none"> ○日進市は、子育て世代を中心に人口が増加しており、広い駐車場を備え、気軽に車で立ち寄りやすい道の駅に子育て支援機能を持たせ、子育て支援ニーズ拡大への対応を図る ○DMOが、「道の駅」を拠点に地域の観光情報を集約、情報発信・案内し、地域資源を生かした価値創造へとつなげる ○日進市は、人命救助活動部隊の活動拠点を第2次緊急輸送道路沿いに設置し防災体制の充実を図る ○農業振興計画「田園フロンティアパーク構想(基本計画)」の拠点施設に隣接して整備することで、相乗効果を図る
8	兵庫県	養父市	ようか但馬蔵	<ul style="list-style-type: none"> ○北近畿・山陰エリアの訪日インバウンドに向けたワンストップ窓口機能を設けることで、訪日インバウンドを道の駅から各地へ送客する仕組みを構築するとともに、子育て支援機能を充実させる ○“地域人”養成を目的にした産官学連携を実施し、道の駅を通じて“地域の後継者”づくりを行う

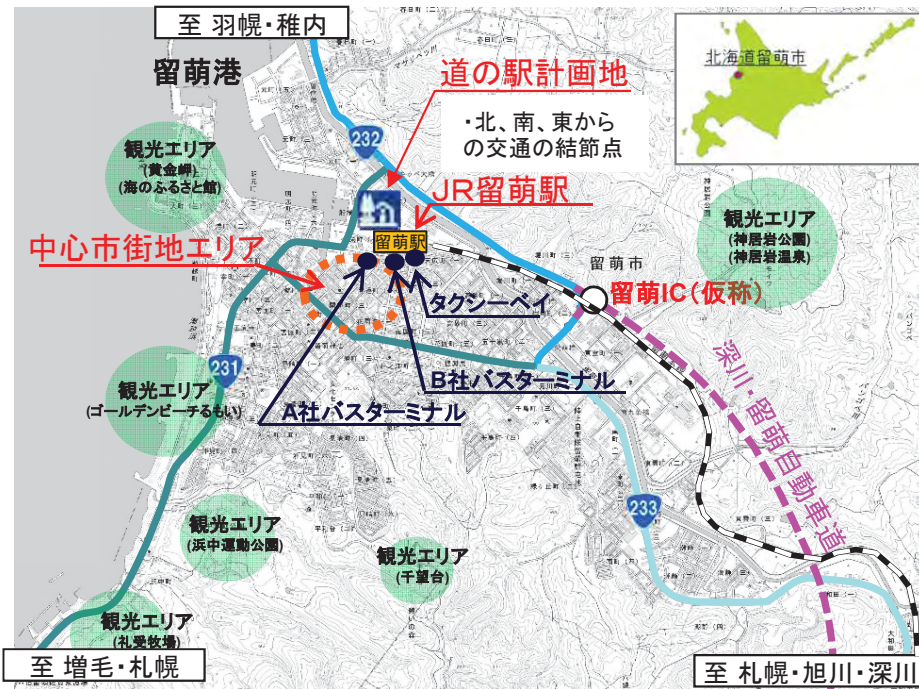
平成30年度 重点「道の駅」選定駅（15箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
9	奈良県	天理市	奈良県国際芸術家村(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ○県内に点在する修復機能を集約化し、建造物や遺跡から彫刻・絵画等の美術工芸品まで修復できる中核拠点を整備 ○修復機能の集約施設に、修復作業を公開・解説する機能や歴史文化資源に触れあう機能、文化財の保存修復に係る伝統的な技術の伝承など人材育成を行う機能を導入し、観光・交流施設に機能を拡充 ○地元農産品を活用した農家レストランやマルシェの設置、伝統工芸品の販売施設なども併設して複合化 ○歴史文化資源に関する国際フォーラム・シンポジウムを積極的に誘致し、地域の強みを生かして県外だけでなく広く国外からのインバウンド需要を呼び込むなど地域の文化資源を活用、国内外への情報発信力を強化 ○風景街道である「山の辺の道」と接続した周遊観光を実現
10	広島県	安芸太田町	来夢とごうち	<ul style="list-style-type: none"> ○地域商社による「地域商社機能」「地域DMO機能」「道の駅運営」の三位一体の取組による稼ぐ観光まちづくりの拠点 ○高速道路ICや広島市に近接する立地を活かし、インバウンドを呼び込むためのゲートウェイ機能を強化 ○国際教育を推進している地元高校とチームを組み、インバウンド対応に向けた新たなサービスを創出 ○町の魅力を伝えるショールーム的役割を担うため、周辺の景観、自然へのいざない、人と人との交流の舞台となる「道の駅」を実現
11	徳島県	三好市	大歩危	<ul style="list-style-type: none"> ○ミシュラングリーンガイド・ジャパンでも紹介されている「祖谷溪」や名勝指定された「大歩危・小歩危」等数々の観光資源の玄関口である道の駅「大歩危」にて、インバウンドに対応した、ゲートウェイ(観光拠点)としての案内機能強化や周遊観光機能整備を図る ○DMO団体、四国風景街道などと連携し地域資源を活かした観光を推進し、周遊・滞在型観光を推進する
12	熊本県	和水町	きくすい	<ul style="list-style-type: none"> ○広域からの玄関口として、周辺観光地と連携して観光情報発信や観光ツアー斡旋等の広域的な観光振興を先導 ○自然の中でのアウトドアスポーツや“いだてん”に因んだマラソン大会開催等家族やグループでスポーツを楽しむ ○子育て世代や高齢者が入浴施設でのリフレッシュ等を通じて集い、交流し地域が支えコミュニティを形成する
13	大分県	由布市	ゆふいん	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅・道守大分会議・日本風景街道が連携した「三つの輪」と協働し、交流機会の向上を図る ○子育て支援として、一時預かり機能や授乳室等の整備を図る ○外国人観光客に配慮し、JNTO案内所としての質的向上を図る
14	鹿児島県	奄美市	奄美大島住用	<ul style="list-style-type: none"> ○「奄美大島唯一の道の駅」、奄美大島の観光情報・道路情報等の広域的な情報・更なるサービス向上 ○奄美大島の「国立公園化・世界自然遺産登録」を目指し、増加する外国人観光客対応への機能拡充
15	沖縄県	名護市	許田	<ul style="list-style-type: none"> ○専任ガイド(JNTOカテゴリーⅡ)の配置を行い「道の駅」での観光情報発信の機能充実 ○沖縄自動車道の末端である許田ICに近接する立地を活かし、周辺観光地(美ら海水族館等)へ向かうインバウンドを呼び込むための拠点として、エアポートシャトルとの連携(停留所の設置)。またそれらと周辺観光のための移手段の検討 ○大学からの提案等を得ながら、HPやSNS等情報発信媒体により北部地域の周遊観光や「道の駅」利用者の満足度向上につながる周遊観光、イベント、満空に関する情報を多言語対応にて提供 ○24時間利用可能な授乳室、おむつ交換スペースを設置、子育て支援機能の充実。屋根つき優先駐車スペースの確保等

道の駅「るもい船場公園(仮称)」(北海道留萌市) 企画概要 <新設>

- 高速道路の終点インターチェンジや中心市街地に近接する立地環境を活かし、高速バス、周辺自治体や市内観光スポットに連絡する路線バス等を集約し、交通結節機能を強化
- シーニックバイウェイ(日本風景街道)や地元高校、農家等と連携し、観光情報発信や商品開発
- 都市公園の環境・施設を活用した子育て環境の創出

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
るもい船場公園(仮称)	北海道	留萌市	国道231号	新設	平成31年度	単独型



<提案の先駆性・ポイント>

- 高速道路の終点インターチェンジに近接する立地環境を活かし、既存の公共交通機能集約化
- シーニックバイウェイ(日本風景街道)と連携したインバウンド対応による広域周遊拠点を形成
- 市街地の都市公園に親子で滞在しやすい子育て環境を創出

<実施内容>

- 多様な交通手段(バス、サイクル)の結節機能、観光コンシェルジュの配置、インバウンド対応観光サイン、キャンピングカー専用駐車場等の環境整備
- 地元産品を活用した地域ブランドの構築、販売促進・販路拡大について地元高校や農家等と連携
- 多目的公園を活用した常設型の子ども農山漁村・遊び体験、料理しながら学ぶ子供英語教室(イングリッシュキッチン)

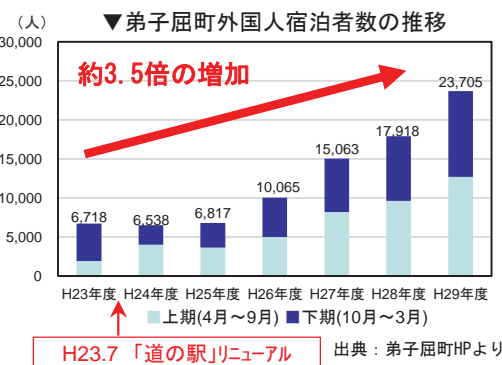
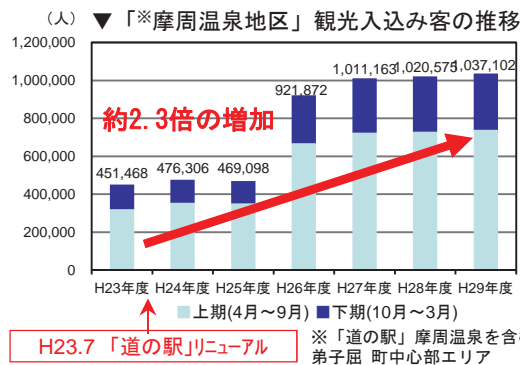
ましゅう おんせん てしがが ちょう
道の駅「摩周温泉」(北海道弟子屈町) 企画概要 <既設>

- 道東地域観光の玄関口の役割を担うとともに、多様化する旅行ニーズに対応するため、シーニックバイウェイ(日本風景街道)や周辺自治体と連携することで、観光情報や地域情報の収集・発信を行う広域的な情報発信拠点とする。
- インバウンド観光客の受入体制及び情報発信のさらなる強化を図る。
- 厳冬期の暴風雪害時の一時避難場所として、災害情報提供の強化を行い、防災拠点として機能向上を図る。

弟子屈町周辺の観光資源



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
摩周温泉	北海道	弟子屈町	国道241号	既設	平成5年 (平成23年 リニューアル)	一体型



▼シーニックバイウェイ(日本風景街道)ルート団体による道の駅周辺での活動



<提案の先駆性・ポイント>

- 道東地域観光の玄関口の役割を担うとともに、多様化する旅行ニーズに対応するため、周辺自治体やシーニックバイウェイ(日本風景街道)とも連携し、広域的な観光情報の収集・発信や地域活性化による取り組みを実施
- 弟子屈町の魅力(自然・観光地・歴史・文化・食)を世界に発信するため、外国人観光客の受け入れ体制の整備強化
- 暴風雪害時の一時避難場所として、防災拠点機能を強化

<実施内容>

- 観光情報発信スペースの拡充、道東地域全体の総合観光案内
- 道の駅来訪者に対して町内周遊や町内店舗情報の発信
- 道の駅との連携による既存観光地周遊バスの運行強化
- 観光地案内や地場産品情報の外国語案内
- 車中泊者専用の駐車スペースや臨時駐車場への誘導
- 暴風雪害時等に道路利用者の一時避難場所として機能する防災拠点機能の強化

道の駅「しちのへ」(青森県七戸町) 企画概要 <既設>

- 十和田奥入瀬観光のゲートウェイとして、地域DMOと連携した滞在型インバウンド観光等の商品開発
- 農業体験や民泊ができる旅行商品の開発により、都市部向けの「七戸ブランド」(長芋・にんにく等)の販路拡大
- 子育て世代、若い世代の交流できる環境づくりにより、就業の場の創出、利用しやすい道の駅を目指す

道の駅を核とした地域マネジメントによる地域振興

<現状と課題>

- 青森県インバウンド需要が増加傾向、特に奥入瀬溪流が人気のなか、その取込みに苦慮
- 少子高齢化、人口流出による観光、農業の衰退
- 農業後継者不足による特産品(長芋・にんにく等)の生産・販売の維持
- 若者の流出抑止のための地域・産業の停滞

新青森駅 ⇒ 七戸十和田駅 16分
 青森空港 ⇒ 七戸十和田駅 51分
 八戸駅 ⇒ 七戸十和田駅 12分
 七戸十和田駅 ⇔ 奥入瀬溪流 約60分



<提案の先駆性・ポイント>

- 地域DMOと連携した観光商品の開発・販売、旅行事業者と連携
- 地域DMOを構成する町 商工観光課を道の駅へ移し観光行政強化
- 地域DMOと連携した地域カードを活用したマーケティング情報分析
- 勉強会等の実施による人材育成、
- 子育て世代、若い世代が買い物しやすい環境づくり、就業の場創出
- 観光を起点とした教育機関との連携

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
しちのへ	青森県	七戸町	国道4号	既設	平成5年	一体型



道の駅「しちのへ」

【機能向上による集客】

- ・商工観光課を道の駅に移設、強化
- ・外国人観光案内所JNTO認定(L1)
- ・第3種旅行業取得(観光協会)
- ・コミュニティバス発着の集約
- ・子育て世代、若い世代の利用しやすい環境づくり



連携

「地域DMO」

【集客力向上、マーケティング分析】

- ・インバウンドの滞在型観光に向けた旅行商品開発
- ・特産品(長芋、にんにく等)「七戸ブランド」のマーケティング支援
- ・農業体験や民泊実施に向けた勉強会
- ・教育機関との連携



「風景街道」

【十和田奥入瀬浪漫街道】

- ・街道のゲートウェイとして、周辺自治体や関係団体と連携し、周遊観光情報を発信
- ・十和田奥入瀬観光と連携した農業体験、

【地域観光拠点化(インバウンド含む)】

- ・十和田湖・奥入瀬等の広域観光連携のゲートウェイ
- ・季節行事にあわせた着付体験等企画の展開
- ・地域DMOと連携した農業体験や民泊等の滞在型観光の商品開発



【産業振興の拠点化(地域ブランド確立)】

- ・地域DMOと連携した「七戸ブランド」の都市部への販路拡大
- ・地域DMOと連携し、地域カードによるデータ分析、マーケティング支援
- ・子育て世代から高齢者まで買い物しやすい道の駅



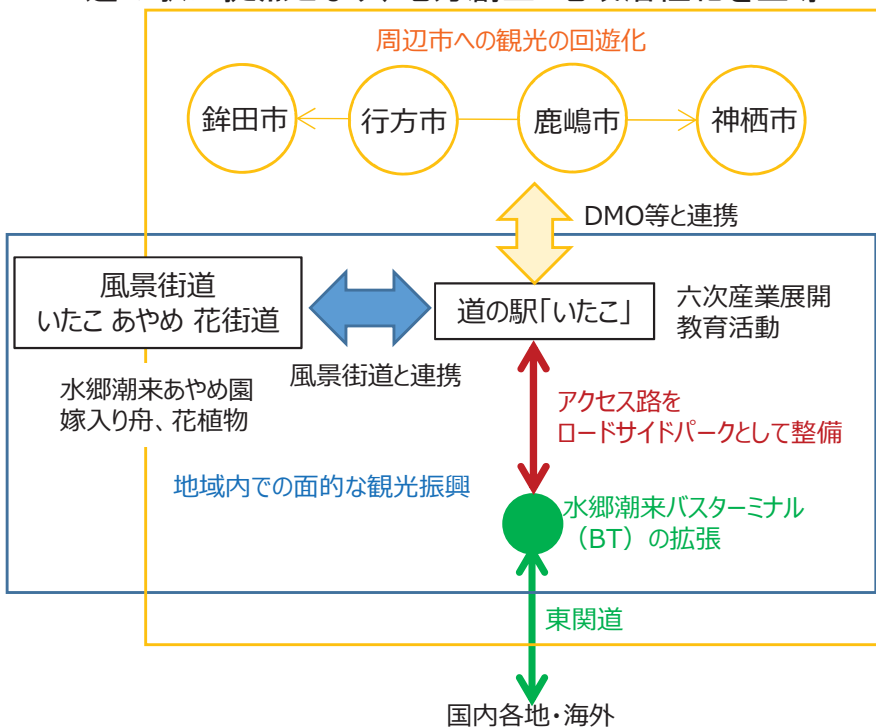
<実施内容 民泊等の展開>

- 観光総合案内窓口の設置(JNTO L1 ⇒ L2)
- 旅行商品(インバウンド向け)旅行商品の開発
- パーク&ライドによる周遊観光の促進
- 地域カードを活用したマーケティング支援と地域情報発信
- 地元農家のネットワーク化、新規就農の促進による所得向上
- 教育機関と連携した郷土愛醸成、就業の場創出

道の駅「いたこ」(茨城県潮来市) 企画概要 <既設>

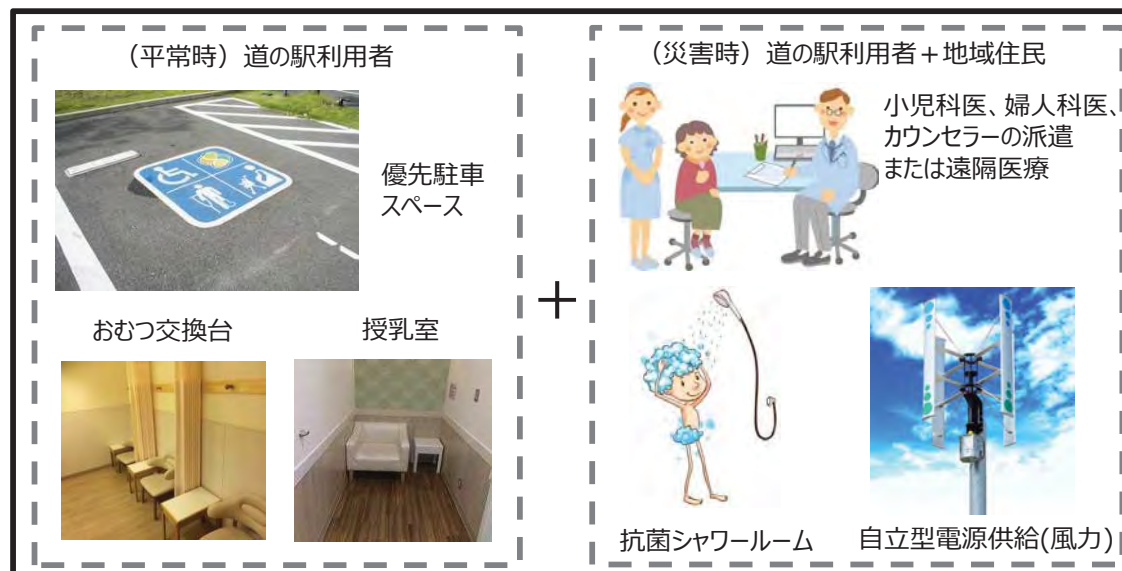
- DMOと連携しスポーツツーリズムの取組を通じ、道の駅を拠点とした周辺市への観光の周遊化を図り、インバウンド観光の効果を広域的に活性化させる
- 風景街道の利用拠点と道の駅を双方向で誘導させ、地域内でも面的に観光振興を行う
- 平常時はもとより、災害時においても、子育て世代の安心と安全を応援する

道の駅が拠点となり、地方創生・地域活性化を主導



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
いたこ	茨城県	潮来市	県道101号	既設	平成14年	一体型

平常時も災害時も子育て世代を支援



<提案の先駆性・ポイント>

- DMOと連携した次世代観光拠点の形成
- 風景街道と連携し、地域内で面的な観光振興を実施
- 観光の拠点となる道の駅において、六次産業化による加工品を展開し、観光・産業振興による雇用を創出
- 今後を担う地元の若者へ地域のアイデンティティを醸成させる
- 優先駐車スペースや授乳室・おむつ交換台で子育て世代を支援
災害時は遠隔医療も受けられる防災拠点として抗菌施設を整備

<実施内容>

- 近隣市と一体となった観光プランニングの実績を有するDMOと連携し、BTを活かし道の駅を拠点とした観光の周遊化を実施
- 道の駅運営会社が風景街道の水辺拠点を管理運営し、道の駅と地域観光資源を結びつけ、市内観光事業をリードさせる
- 初等教育や中等教育にて、風景街道・道の駅と歴史文化を郷土資産として認識させる教育を継続して実施する
- マザーズキャビンを整備し、子育て世代の安全安心を応援する

道の駅「しょうなん」(千葉県柏市) 企画概要 <既設>

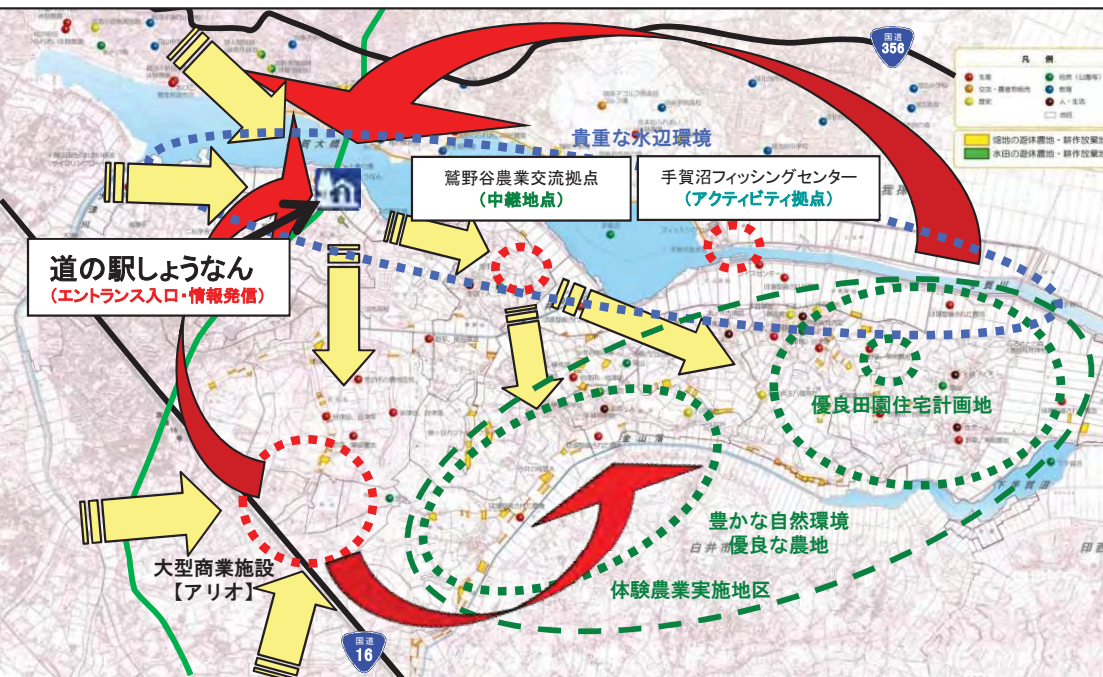
- 道の駅を「都市部と農村部とを繋ぐエントランスパーク(入口)」とし、「集客」「販売」「地域の情報発信」を行う
- 道の駅に「地域の主要産業である農業を振興」させる機能を強化
- 道の駅で「来訪者の地域交流」を促進する機能の強化

<地方創生拠点としての機能>

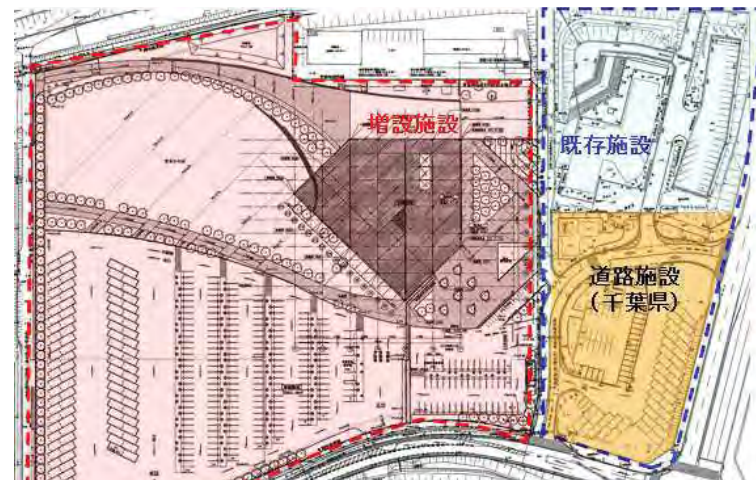
ゲートウェイ型

手賀沼周辺地域の地域資源や交流拠点と連携し、地域のエントランス、情報発信及び販売拠点機能

手賀沼アグリビジネスパーク事業のグランドイメージ



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
しょうなん	千葉県	柏市	県道8号	既設	平成13年	一体型



<整備後>	<現在>
敷地面積 35,775㎡	敷地面積 13,300㎡
駐車台数 約290台	駐車台数 約190台(臨時含)

<提案の先駆性・ポイント>

農業衰退を契機に地域衰退が進みつつある手賀沼地域において、ハード・ソフト両方の強化で、「地域の魅力」と「地域の稼ぐ力」を高め、地方創生を果たす

- 道の駅を都市部と農村部を結ぶエントランスとして再整備し、集客・販売・地域情報の発信の拠点とする。(農産物を作れば道の駅で売れる→農業が活性化)
- 道の駅の再整備だけでなく、自然・歴史・文化等、地域資源のプログラム化を同時に進め、道の駅内外に展開することで、従来地域になかった観光面から、地域参画による集客と交流・活性化を進めている。(体験産業による農業の多様化)
- ギャラリー(屋根付歩行空間)と情報発信、交流スペース、会議室を新たに整備し、農業だけでなく、多様な産業の参入と連携を可能にすることで、道の駅を産業集積による地方創生拠点として再整備を進めている。(手賀地域版産業革命)

<実施内容>

<道の駅しょうなんの拡張整備(ハード面)>

- ・農業振興機能を強化(直売所拡張, 加工体験施設)
- ・産業振興機能を強化(ギャラリー, 情報発信・交流スペース, 会議室)
- ・情報発信機能を強化(収穫体験や観光農園, 地域の取り組み, 周辺施設等)PR
- ・レジャー機能を強化(広場, サイクルラック, 水辺利用)
- ・駐車場機能を強化(台数増設, 大型バス増設, 路線バスターミナル整備)

<手賀沼アグリビジネスパーク事業を中心に、地域活性化の仕掛け(ソフト面)>

- ・地域の取り組みの相談を受け、サポート(体験プログラムづくり, 情報発信)
- ・マーケティング等将来のDMO化に向けた取り組み(持続可能な体制づくり)
- ・産業集積に向けた取り組み(産業支援員によるマッチング, 産業技術展の開催)

道の駅「能生」(新潟県糸魚川市) 企画概要 <既設>

のう

いといがわ

- 地域の2つの日本風景街道との連携により、次世代観光拠点の形成やサイクリング拠点化を推進
- 地域・産学連携等により機能充実を図り、地域の核となる「道の駅」に向けた環境整備を実施



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
能生	新潟県	糸魚川市	国道8号	既設	平成元年	単独型

提案のメニュー

次世代観光拠点の形成

- ・サイクルイベントツアー等の実施 (日本風景街道との連携)
- ・JNTO外国人案内所の機能充実 (インバウンド向け情報発信機能強化)
- ・特産品販売による一次産業活性化



サイクリング拠点化

- ・サイクルステーションとしての情報発信機能の強化
- ・サイクルイベント等、体験メニューの充実



産学連携による6次産業化推進

- ・高校の実習や交流フィールドの提供 (高校生レストランとの連携)
- ・水産加工物の6次産業化のための環境整備
- ・地元漁協のアンテナショップ設置



機能の多様化

- ・RVパーク、EV設備拡充
- ・子育て支援設備の充実
- ・体験型観光メニューの充実

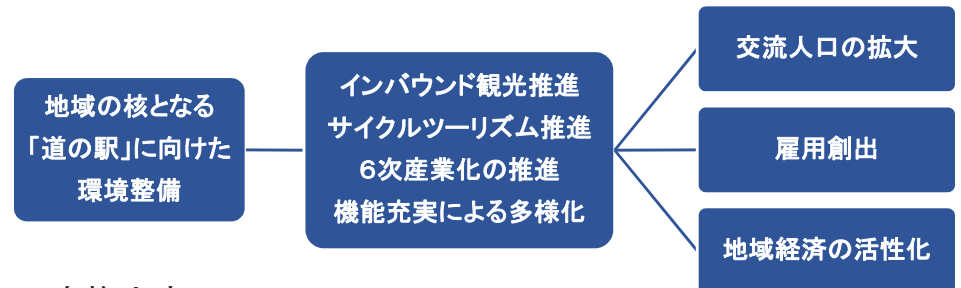


地域の概要

- ①海や山の観光資源の豊富な地域に「道の駅」が立地**
→地域の2つの日本風景街道等との連携強化による誘客・特産品販売促進
- ②海の幸や自転車道でのサイクリングを求める外国人客の増加**
→インバウンドに対応した地域情報発信機能の強化
→サイクルイベント等の充実、「道の駅」のサイクリング拠点化
- ③多様な機能を有し、魅力向上を図り続ける「道の駅」**
→水産加工物の6次産業化のための環境整備、地元水産高校との連携
→充電インフラ設備等の拡充整備、子育て支援設備の充実等

<提案の先駆性・ポイント>

- 地域の2つの日本風景街道と連携した次世代観光拠点の形成
- JNTO案内所(カテゴリーI)の機能充実によるインバウンド観光推進
- サイクルイベント等の充実、道の駅のサイクリング拠点化
- 機能の多様化(6次産業化環境整備、充電インフラの整備、子育て支援充実)



<実施内容>

- 日本風景街道と連携したサイクルイベントツアーや特産品販売の実施
- サイクルツーリズム推進、サイクリスト受入れ環境拡充整備
- 地元高校、漁業協同組合と連携し、水産加工物の6次産業化推進のための環境整備、レストラン等の連携イベント開催
- RVパーク、EV充電施設の拡充整備
- おむつ交換スペース等、子育て支援設備の充実
- 釣りポート設置、施設改修による観光メニューの充実

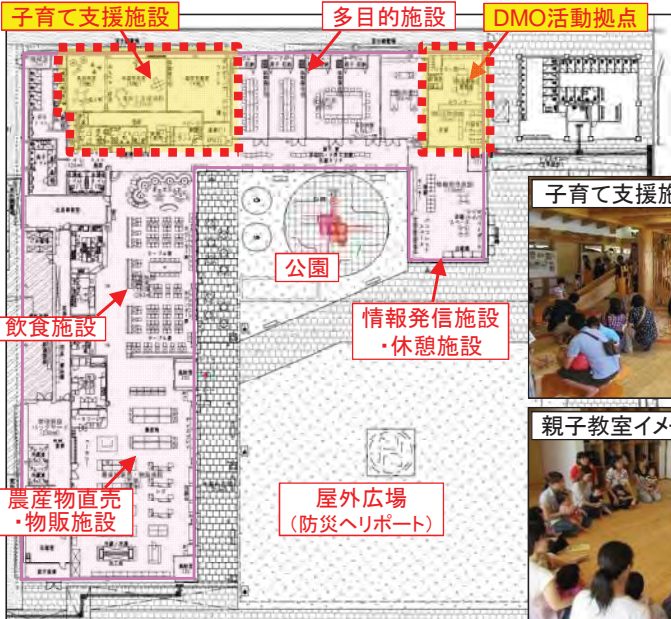
道の駅「(仮称)につしん」(愛知県日進市) 企画概要 <新設>

- 日進市は、子育て世代を中心に人口が増加しており、広い駐車場を備え、気軽に車で立ち寄りやすい道の駅に子育て支援機能を持たせ、子育て支援ニーズ拡大への対応を図る。
- DMOが、「道の駅」を拠点に地域の観光情報を集約、情報発信・案内し、地域資源を生かした価値創造へとつなげる。
- 日進市は、人命救助活動部隊の活動拠点を第2次緊急輸送道路沿いに設置し防災体制の充実を図る。
- 農業振興計画「田園フロンティアパーク構想(基本計画)」の拠点施設に隣接して整備することで、相乗効果を図る。

子育て応援

《子育て応援に取り組む施設イメージ》

※指定管理者制度の活用により、収益部門(飲食・物販施設等)との一体経営により管理運営を行う



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)につしん	愛知県	日進市	主要地方道 瀬戸大府東海線	新設	平成35年度 (予定)	一体型 (予定)

安心して子育てできる 環境整備の拡充

- 昭和55年から平成27年までの間に、人口が約2.1倍の87,622人にまで増加。
- 子ども数や転入率は、国や愛知県平均を大きく上回る水準。
- 将来人口推移をみると、2060年(平成72年)には110,764人になると予測。

子育て支援施設イメージ



授乳室等イメージ



親子教室イメージ



屋外広場イメージ



次世代観光拠点の形成(DMO)

- 「につしん版DMO」(設立準備中)を「道の駅」に設置し、観光まちづくりの拠点として展開。



道の駅を拠点に観光情報を集約、情報発信



[観光資源:愛知牧場]



[観光資源:岩崎城]

<提案の先駆性・ポイント>

- 広い駐車場を備えた道の駅に子育て支援施設(屋内)を設置し、相談等を実施することで、増加する子育て世代のニーズ対応、孤立化の防止や情報発信能力の向上を図る。
- 緊急輸送道路沿いに人命救助機能(防災拠点)を位置付け、南海トラフ地震を始めとする大規模災害に備えた防災体制を充実。
- DMOや多目的施設を中心に、子育て世帯、学生、NPO等の市民が集い、情報交換や交流・連携の促進されることで、地域の観光やイベント等、地域をPRする情報発信拠点として地域づくりを推進。

<実施内容>

- 子育て支援施設、広場・公園、授乳室、子ども用トイレ、オムツ替え台、思いやり駐車場(妊婦優先駐車スペース)等の整備
- 保護者の子育て相談「出張広場」の開催、遊び場の提供、親子の学びの提供として講座・市内大学と連携した子育てイベントの開催
- 防災拠点として防災ヘリポートを兼用した広場、非常電源、災害用トイレ等の整備
- DMO活動拠点(事務所)、市民自治活動の場として多目的施設の整備、屋外広場内に電源・水道の整備

道の駅「ようか但馬蔵」(兵庫県養父市) 企画概要 <既設>

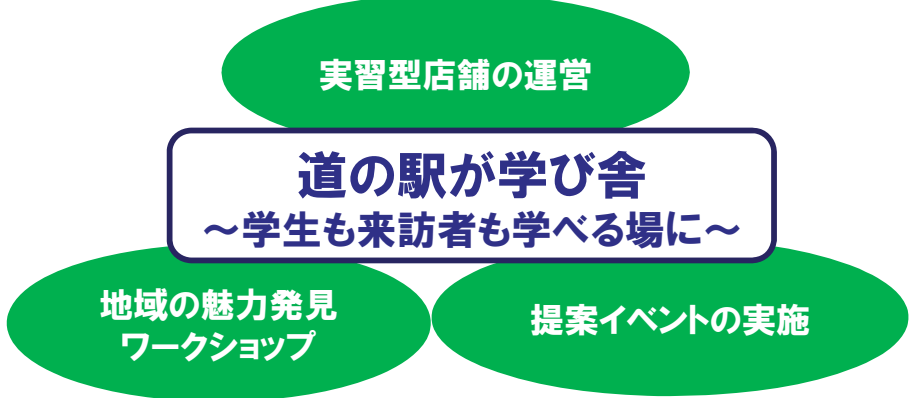
但馬地域の交通の要衝である立地の利点を活かした「北近畿のゲートウェイ」拠点づくりを展開

- 北近畿・山陰エリアの訪日インバウンドに向けたワンストップ窓口機能を設けることで、訪日インバウンドを道の駅から各地へ送客する仕組みを構築するとともに、子育て支援機能を充実させる。
- “地域人”養成を目的にした産官学連携を実施し、道の駅を通じて“地域の後継者”づくりを行う。



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ようか但馬蔵	兵庫県	養父市	国道9号	既設	平成18年	一体型

国家戦略特区養父市で行う “地域人”を養成するための産官学連携事業



高速道路に隣接
2021 WMG開催
交通の結節点

北近畿の「訪日インバウンドの拠点」
として機能を拡充させ、「旅のはじまり」の舞台に

<提案の先駆性・ポイント>

- 【北近畿における訪日インバウンドの拠点づくり】
 - 県域を越えた「訪日インバウンド向け観光総合窓口」としての位置づけ
 - 「スーパーシティ」化に向けた養父市の拠点として機能拡充
 - 高速道路に隣接する交通の結節点として二次交通等の機能拡充
- 【子育て支援機能】
 - 子育て世代への支援拡充を実施
- 【地域人を養成する産官学連携事業】
 - 若年層の人口流出阻止、UIJターンによる移住定住人口増を目的とした事業位置づけ

<実施内容>

- 【北近畿における訪日インバウンドの拠点づくり】
 - 北近畿エリア、山陰エリアの観光情報の提供、問合せも受け付ける訪日インバウンド向けワンストップ窓口の設置、着地型旅行の実施
 - キャッシュレスサービスの実施(クレジット決済、QRコード決済等)
 - バスターミナルの機能拡充
- 【地域人を養成する産官学連携事業】
 - 実習型店舗の運営(但馬農高による生産物の販売、地域の物品販売)
 - 地域の魅力を発見するワークショップの実施
 - 学生や地域住民自らが企画提案したイベントの実施
- 【子育て支援機能】
 - 子育て支援機能の充実(屋根付駐車場の整備、おむつのばら売り等の実施)

な ら け ん こ く さ い げ い じ ゅ つ か む ら て ん り
道の駅「奈良県国際芸術家村(仮称)」(奈良県天理市) 企画概要 <新設>

- 県内に点在する修復機能を集約化し、建造物や遺跡から彫刻・絵画等の美術工芸品まで修復できる中核拠点を整備
- 修復機能の集約施設に、修復作業を公開・解説する機能や歴史文化資源に触れあう機能、文化財の保存修復に係る伝統的な技術の伝承など人材育成を行う機能を導入し、観光・交流施設に機能を拡充
- 地元農産品を活用した農家レストランやマルシェの設置、伝統工芸品の販売施設なども併設して複合化
- 歴史文化資源に関する国際フォーラム・シンポジウムを積極的に誘致し、地域の強みを生かして県外だけでなく広く国外からのインバウンド需要を呼び込むなど地域の文化資源を活用、国内外への情報発信力を強化
- 風景街道である「山の辺の道」と接続した周遊観光を実現

【考古分野の公開解説イメージ】



【美術工芸分野の公開解説イメージ】



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
奈良県国際芸術家村(仮称)	奈良県	奈良県	国道25号	新設	平成33年	一体型



<提案の先駆性・ポイント>

- 世界遺産や国宝、重要文化財などを多く有する奈良県の強みを活かし、文化財・文献資料・歴史上の登場人物など、これまで戦略的な投資が十分になされてこなかった歴史文化資源の活用に係る施策の展開
- 文化・芸術振興の取り組みに加え、観光・産業振興、まちの賑わいづくりなどの政策間連携による地域活性化

<実施内容>

- 奈良県文化財保存事務所(建造物)、天理市文化財課・奈良県橿原考古学研究所(考古)、民間修復事業者(美術工芸)等、修復機能を集約
- 修復体験や仏像等のレプリカのハンズオン展示などの体験学習を実施
- 県内の社寺や他の文化施設、観光名所を周遊する着地型旅行の拠点化
- 観光交流拠点として、農家レストランやマルシェ、伝統工芸品の販売施設設置
- 天理市と連携し国内外の芸術家を招聘する文化・芸術振興の取り組み、観光・産業振興、まちの賑わいづくりなどにより地域を活性化

道の駅「来夢とごうち」(広島県安芸太田町) 企画概要 <既設>

- 地域商社による「地域商社機能」「地域DMO機能」「道の駅運営」の三位一体の取組による稼ぐ観光まちづくりの拠点
- 高速道路ICや広島市に近接する立地を活かし、インバウンドを呼び込むためのゲートウェイ機能を強化
- 国際教育を推進している地元高校とチームを組み、インバウンド対応に向けた新たなサービスを創出
- 町の魅力を伝えるショールーム的役割を担うため、周辺の景観、自然へのいざない、人と人との交流の舞台となる「道の駅」を実現



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既存	設置年度	種別
来夢とごうち	広島県	安芸太田町	国道191号	既存	平成7年	単独型

< 道の駅来夢とごうちの目指す方向 >

つながることによる価値創造エンジン

多目的ハブ機能

- 「道の駅」でつなぐ
 - ・ヒト・モノの導線をつなぐ(物流・交流の結節点)
 - ・都会と田舎をつなぐ(自然と癒しの地域パークのメインゲート)
 - ・町内の観光地をつなぐ(三段峡・井仁棚田・恐羅漢・温井ダム)
- 「道の駅」が関わってつなぐ
 - ・広島市等との広域観光連携により世界とつなぐ(インバウンド)
 - ・DMOと産品をつなぐ(一元的ブランディング・プロモーション戦略)
 - ・事業者をつなぐ(事業者間・産業間連携・産官学連携)

- 「道の駅」をより楽しめる目的地に
 - ・来訪者、お客様にやさしい、使いやすい導線
 - ・地域の商品、食事のラインナップの充実、休息・遊び・体験の場の整備
- 「道の駅」を安芸太田町のまちの魅力を伝えるショールーム
 - ・安芸太田町の魅力を伝えるプレゼンテーションの場
 - ・リピーターを飽きさせない、新鮮な情報発信をつづける場
 - ・新しい来訪者に興味を持ってもらう場



わくわく感あふれる自然と癒しの地域パークへの誘い

< 提案の先駆性・ポイント >

- DMO機能を持つ「地域商社」が道の駅を運営し、商品(モノ・コト)開発、プロモーション、観光客の受入を地域の事業者等との連携により実施し、「稼ぐ観光まちづくり」を推進する。
- 広島市を訪れるインバウンド150万人を中山間地域に呼び込むための拠点として機能させる。
- 高速C近傍の立地を活かし、高速バスによる貨客混載での新鮮野菜出荷の拠点を形成する。

< 実施内容 >

- ゲートウェイ機能を強化する道の駅本体及び周辺施設のリニューアル(再配置等)
- 特産品の祇園坊柿等を活用した新規商品開発と既存商品のブラッシュアップ及びプロモーション強化
- 郷土料理、工芸等を活用した体験施設、メニューの整備
- 高速バスを活用した貨客混載での新鮮野菜出荷の拠点として、広島市中心部のバスセンターにおける受け取りの仕組みづくり
- 地元高校生とインバウンドのチームによるインバウンド向けサービスの創出 等

これまでの取組



町内特産品を高付加価値化した「チョコちゃん」

産官学協業で開発した祇園坊柿ジュレート

町内起業者のビジネスモデル実験や新商品試験販売を実施

JNTO認定外国人観光案内所(カテゴリー1)

道の駅「大歩危」(徳島県三好市) 企画概要 <既設>

おおほけ

みよし

○ミシュラングリーンガイド・ジャパンでも紹介されている「祖谷渓」や名勝指定された「大歩危・小歩危」等数々の観光資源の玄関口である道の駅「大歩危」にて、インバウンドに対応した、ゲートウェイ(観光拠点)としての案内機能強化や周遊観光機能整備を図る。
 ○DMO団体、四国風景街道などと連携し地域資源を活かした観光を推進し、周遊・滞在型観光を推進する。



<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅「大歩危」を窓口とし、にし阿波～剣山観光圏(三好市、美馬市、東みよし町、つるぎ町)を地域DMO「そのの郷」及び、四国風景街道「三好市秘境ロマン街道推進協議会」と連携し、観光施設の情報を一体的に発信、地域全体のゲートウェイとして、周遊・滞在型観光を推進する。
- 「過疎地域自立活性化優良事例」に認められた「山城・大歩危妖怪村」と連携し、「妖怪」を活かした観光地づくりを行い、滞在時間の増加、周遊観光を図る。

<実施内容>

- 外国人観光案内所機能強化(L1からカテゴリⅡへの格上げ)
- JR大歩危駅との連携 外国人観光客の安全な誘導
- 地域伝承である「妖怪」を活用した観光案内板や多言語案内板の整備
- 外国人旅行者へ「周遊バス」の実証実験により、二次交通の整備促進
- 防災備蓄(食糧、毛布)等の防災機能の強化

なごみ まち

道の駅「きくすい」(熊本県和水町) 企画概要 <既設>

キタクマ※の一体的な観光振興と地域の定住魅力を高める拠点として

- 広域からの玄関口として、周辺観光地と連携して観光情報発信や観光ツアー斡旋等の広域的な観光振興を先導
- 自然の中でのアウトドアスポーツや“いだてん”に因んだマラソン大会開催等家族やグループでスポーツを楽しむ
- 子育て世代や高齢者が入浴施設でのリフレッシュ等を通じて集い、交流し地域が支えコミュニティを形成する

※キタクマは熊本県北の 和水町、玉名市、山鹿市、菊池市からなるエリアの略称

次世代観光拠点

熊本県北のゲートウェイとしてインバウンド対応型の観光情報案内、野外スポーツ体験、スポーツ大会

道守との連携

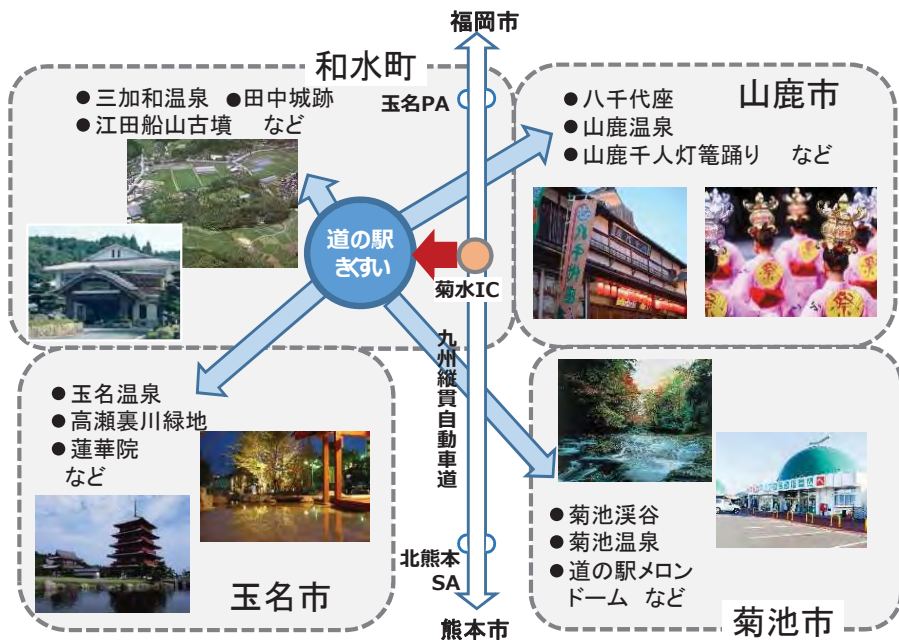
風景街道、道守等と連携し、施設や沿道の美化活動を後方支援

高速道路との連携

IC近傍を活かしたSA・PAでの入浴休憩案内サービス、防災機能の強化

子育て応援

子育て世代への休憩機能や集落からの接続サービス性の向上



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
きくすい	熊本県	和水町	主要地方道 玉名山鹿線	既設	平成7年	一体型



Copyright ©NTT空間情報All Rights Reserved



キャンピングカーお泊り体験



カヌー体験



金栗四三生家



サップ体験

<提案の先駆性・ポイント>

- 外国人にも対応可能な観光案内、北熊本の観光情報提供や観光ツアーの斡旋等によりインバンド観光も見据えた宿泊型広域周遊観光を促進
- 自然の中でアウトドアスポーツ、キャンプ、スポーツ大会等のスポーツを楽しむ、リフレッシュし健康増進を図る
- 菊水ICからの近接性を活かし、高速道利用者が入浴し、ゆったりと休憩できる休憩案内サービス、防災機能の強化
- 子育て世代にやさしく、いつでも立ち寄りやすい地域コミュニティ拠点の形成

<実施内容>

- 「菊池川流域日本遺産」を生かした多言語音声ガイドシステム、外国人対応可能な案内スタッフ配置、情報・交流施設(総合窓口案内所)の改修
- 災害時に機能するRV駐車場の拡大、キャンピングカー・古民家(空き家)を活用した宿泊体験、カヌー・サップ等のスポーツ体験の提供
- 九州自動車道玉名PA、北熊本SAへの入浴休憩サービス情報案内、防災情報の発信や防災広場としての活用
- おでかけ交通あいのりくんの利用促進に向けた待合所の整備、施設回りや周辺農地への大規模花植え、子育て世代向け各種イベント等の開催

道の駅「ゆふいん」

大分県由布市

- 道の駅・道守大分会議・日本風景街道が連携した「三つの輪」と協働し、交流機会の向上を図る。
- 子育て支援として、一時預かり機能や授乳室等の整備を図る。
- 外国人観光客に配慮し、JNTO案内所としての質的向上を図る。

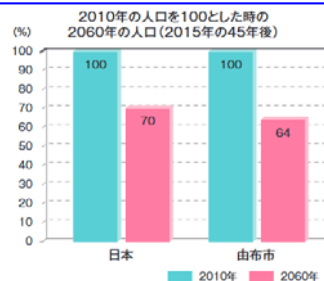


道の駅「ゆふいん」

交流 「三つの輪」との連携	子育て支援 子育て支援環境の充実	観光 情報発信機能の強化
------------------	---------------------	-----------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ゆふいん	大分県	由布市	一般国道210号 県道別府湯布院線	既設	平成15年度	一体型

【人口減少が進む由布市】
50年後、人口が4割減、全国値を下回る



新しい人の流れ・交流促進



「三つの輪」による道の駅「ゆふいん」に造成した“おもてなし花壇”

子育て支援に資する「道の駅」



観光情報の質的向上を図る「道の駅」



<提案の先駆性・ポイント>

- 「道守大分会議」「風景街道」「道の駅」で形成される「三つの輪」と協働し、駅内の花壇造成等、多様な主体や世代の交流向上に努める
- 子育て支援環境充実のため、施設整備等を推進する
- 交通結節機能を有する道の駅として、多様なトリップの利用者に資する道路情報や休憩者のための地元観光情報の提供
- 増加する外国人来訪者への対応として、JNTOカテゴリ-2を目指す。また留学生を活用し、SNS等を用いて積極的な外部発信を行う。さらに、風景街道「九州横断の道やまなみハイウェイ」沿線の観光地への情報発信強化を行う

<実施内容>

- 「三つの輪」として協働し交流機会を拡大
- 定住及び移住推進事業の案内窓口設置
- 子育て支援として、子育て交流コーナー、一時預かりの機能、授乳室等の整備
- 外国人案内の質的向上、SNSの活用、風景街道沿線観光地の情報提供、近傍から遠方と幅広い区間の情報提供、由布市観光インフォメーションセンターとの連携

あまみ おおしま すみよう
道の駅「奄美大島住用」（鹿児島県奄美市）企画概要 <既設>

- 奄美大島インバウンド観光拠点の創生 ～外国人観光客が安心して訪れる「道の駅」としての機能拡充～
- 「奄美大島唯一の道の駅」、奄美大島の観光情報・道路情報等の広域的な情報・更なるサービス向上
 - 奄美大島の「国立公園化・世界自然遺産登録」を目指し、増加する外国人観光客対応への機能拡充

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

インバウンド観光
外国人観光客への安心な案内提供

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
奄美大島住用	鹿児島県	奄美市	国道58号	既設	平成12年	一体型



マングローブ原生林
大好評のカヌーツーリング



黒糖焼酎は奄美だけの特産品
多くの皆様に愛飲されています



<実施内容>

- ODMO候補法人と連携し体験プログラムの発掘とガイドの育成
- 世界自然遺産センターと併設した整備等により、インバウンド促進の観光拠点化
- 外国語対応の強化(JNTOカテゴリーⅡ認定、外国語対応スタッフの雇用、特例通訳案内士の育成、多言語案内表示の設置)
- 免税店の併設・外国発行クレジットカード電子決済対応
- 沖縄では絶命したリュウキュウアユの人工ふ化や、河川での産卵床の造成・天然リュウキュウアユの観察会の開催

奄美大島唯一の「道の駅」国道58号の中間
拠点として、地域のゲートウェイとして機能

豪華客船の寄港による外国人観光客
(道の駅はオプションツアーの定番コース)

寄港数	乗船人数	うち外国人数
14隻	20,190人	17,000人

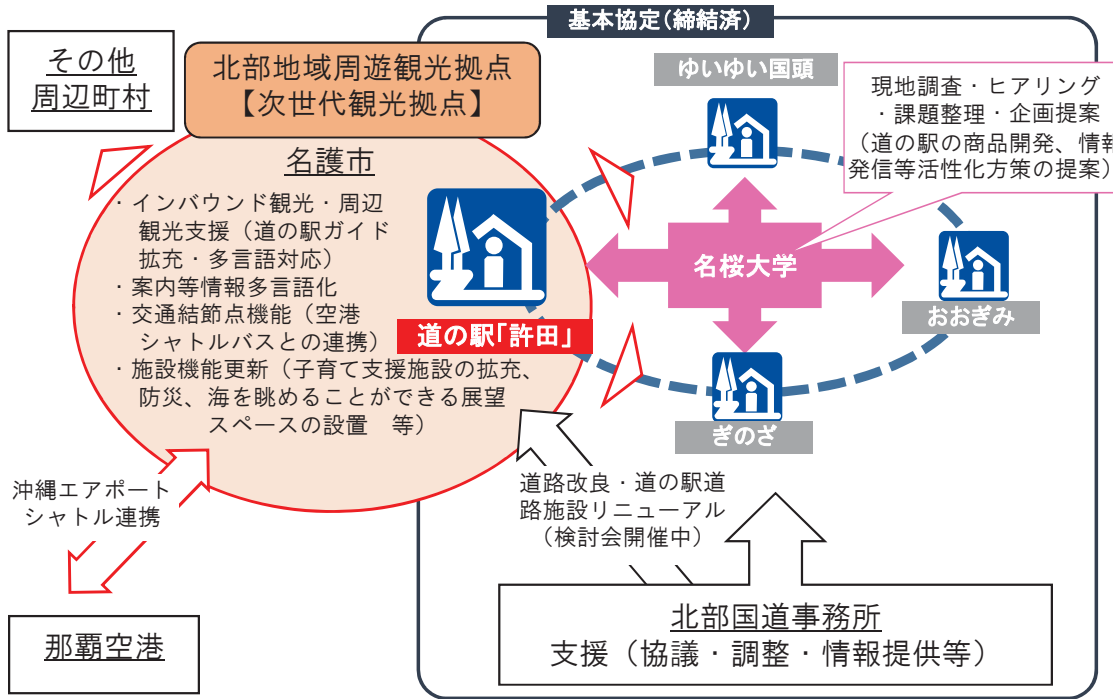
※平成30年4月～10月末
<提案の先駆性・ポイント>

- 奄美群島国立公園特別保護地区であるマングローブ原生林等の貴重な地域資源を活用した自然回帰型の道の駅であり、「世界自然遺産登録」を目指している。
- 奄美大島への大型観光船寄港の増加や、国立公園化、世界自然遺産登録を控え、今後も外国人観光客の大幅な増加が予想され、遺産効果を生かした満足度の向上に努め、地型観光や観光案内等への外国語対応・免税店の併設・外国発行クレジットカード対応等の機能拡充を行い、インバウンド観光のさらなるサービス向上を図る。

道の駅「許田」(沖縄県名護市) 企画概要 <既設>

- 専任ガイド(JNTOカテゴリーⅡ)の配置を行い「道の駅」での観光情報発信の機能充実。
- 沖縄自動車道の末端である許田ICに近接する立地を活かし、周辺観光地(美ら海水族館等)へ向かうインバウンドを呼び込むための拠点として、エアポートシャトルとの連携(停留所の設置)。またそれらと周辺観光のための移手段の検討。
- 大学からの提案等を得ながら、HPやSNS等情報発信媒体により北部地域の周遊観光や「道の駅」利用者の満足度向上につながる周遊観光、イベント、満空に関する情報を多言語対応にて提供。
- 24時間利用可能な授乳室、おむつ交換スペースを設置、子育て支援機能の充実。屋根つき優先駐車スペースの確保等。

やんばるの玄関口としての道の駅「許田」の観光ゲートウェイ機能の強化 ～官民学連携による北部地域周遊観光の活性化に向けた次世代観光拠点形成～



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
許田	沖縄県	やんばる物産(株)	国道58号	既設	平成6年	一体型

- 沖縄本島北部地域の玄関口として観光周遊拠点となるよう、観光・地域情報を発信
- 24時間利用可能な子育て支援機能の拡充



○道の駅内の各駐車場の満空情報提供

○道の駅の結節点機能強化



<提案の先駆性・ポイント>

- 次世代観光拠点の形成として周辺道の駅や観光施設等の情報や周遊ルート等、インバウンドや日本人旅行客の多様な観光ニーズに対応が可能な専任ガイド(日本政府観光局認定カテゴリーⅡ相当)の配置を行う。道の駅でのガイド機能の充実
- 24時間利用可能な子育て支援機能の拡充(ベビーコーナー(授乳室、おむつ交換スペース)、屋根付き優先駐車スペースの確保等)

<実施内容>

- 提案1 北部地域周遊観光拠点(次世代観光拠点)の形成
⇒インバウンド対応が可能な専任ガイドの配置や沖縄自動車道と近接する立地を活かしエアポートシャトルとの連携
- 提案2 利用者ニーズを踏まえた地域振興施設等の施設・機能更新
⇒24時間利用可能な子育て支援機能の拡充
- 提案3 リニューアル計画による防災拠点の整備
⇒備蓄倉庫や非常用電源などの防災機能を強化

平成30年度 重点「道の駅」候補 選定駅（14箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
1	群馬県	前橋市	(仮称) まえばし	○官民連携を前提とした新たな整備・運営・維持管理手法を用いた次世代型観光拠点としての「道の駅」
2	埼玉県	行田市	(仮称) ぎょうだ	○行田市内各所に残る歴史を、行田らしい文化、かけがえのない誇りとして継承していく拠点 ○行田市特有の“ものづくり”の文化・技術と、多様な事業者連携による6次産業化と人材育成の拠点 ○様々な機能が集積する小さな拠点として、市民が健康で安心した生活を支援する拠点
3	神奈川県	茅ヶ崎市	(仮称) サザン茅ヶ崎	○県内初の海沿いの道の駅及び湘南地区のゲートウェイとして、地域の魅力を国内外に向けて発信 ○地域製品の強化、産業の活性化や雇用の創出等により地方創生を推進
4	神奈川県	南足柄市	(仮称) 金太郎の ふる里	○道の駅は、「市民協働」、「官民連携」、「地域間連携」の結集による、産業・経済の活性化を目指す拠点 ○東名高速道路大井松田ICと、南足柄市と国際観光地箱根町を連絡する道路を活用し、県西地域のゲートウェイを目指す
5	新潟県	妙高市	あらい	○DMOによる道の駅を拠点とした地域づくり～インバウンド誘客の推進～
6	福井県	美浜町	美浜(仮称)	○JR美浜駅前という立地を活かし、「ゲートウェイ」としての役割を担う「道の駅」を整備 ○人口減少・少子高齢化に伴う地域課題を解決するための「道の駅」を整備 ○子育て交流機能の充実と地元が活気づく産業振興を図る「道の駅」を整備
7	長野県	生坂村	いくさかの郷	○道の駅を拠点に交通ネットワークを充実させ、生活サービスの利便性を図る ○「道の駅いくさかの郷」を駐日ハンガリー大使館認定施設として登録し、次世代観光拠点の形成 ○地元住民との連携による地域資源の活用 ○子育て支援センターや児童館・教育委員会と連携した子育て応援
8	大阪府	河内長野市	奥河内 くろまるの郷	○観光振興の拠点としての機能強化 ○誘客施設としての機能強化
9	兵庫県	丹波市	丹波おばあ ちゃんの里	○舞鶴若狭自動車道と北近畿豊岡自動車道の結節点として、道路・地域情報の総合的な発信拠点 ○丹波野菜や地場製品の販売促進、地産地消の推進による地域経済活性化 ○氷上回廊でのサイクリングの推進によるサイクリストの拠点化 ○快適、清潔、安全のストレスフリーの施設整備運営
10	兵庫県	南あわじ市	うずしお	○世界遺産登録を目指す「鳴門の渦潮」世界に向けて情報発信し、2次交通の脆弱性を解消するなど、周辺地域との連携を強化することで、外国人観光客のニーズに合ったサービスを提供し、インバウンドを促進する ○日本三大サイクリングルートである「しまなみ海道」、「アワイチ(淡路島周遊)」、「ビワイチ(琵琶湖周遊)」及びASAサイクリングルート(四国地方)との広域連携による広域サイクルツーリズムを推進する

平成30年度 重点「道の駅」候補 選定駅（14箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
11	兵庫県	猪名川町	いながわ	<ul style="list-style-type: none"> ○「6次産業拠点化」、「地域拠点化」、「グリーンツーリズム」、「観光拠点化（観光施設・情報発信・体験施設）」を基本方針とし、機能拡大を行い、地域活性化につなげる ○新名神高速道路の整備を契機とし、町民、町外利用者（高速道路利用者）の利用促進 ○官民連携手法（PFI手法）による、リニューアル（移転整備）
12	徳島県	板野町	いたの （仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ○板野町は四国88箇所のお寺が3箇所、また近くに1番札所の霊山寺があり、四国全体のお遍路のスタート位置である ○E11高松道・E32徳島道の双方に近い立地を活用し、四国内外から訪れる高速道路利用者の休息機能と四国お遍路のゲートウェイ機能を両立 ○お遍路に関する情報ステーションやシャワー等のおもてなし広場を設け、お遍路の情報と休息サービスを提供する ○四国内に訪れる訪日外国人は大幅に増加しており、外国人お遍路等を対象とした観光案内所を設ける ○地域産業振興、地域福祉、防災施設としての整備と合わせ、内外からの地域活性化の玄関口としての役割を果たす
13	香川県	綾川町	滝宮	<ul style="list-style-type: none"> ○中讃地域の観光のゲートウェイとして観光資源の情報発信機能強化を図る ○インバウンド観光客への体験型観光・周遊型観光の拡大による地域活性化に取り組む ○地元教育機関と連携した商品開発等による地域産業の活性化を推進する
14	長崎県	平戸市	生月大橋	<ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産、風景街道・道守と連携し、自然景観を活かした交流拠点施設として整備する ○漁業振興を目指し地場製品の販売強化と新規商品を開発する ○顧客ニーズを捉えたフードコートを設置する

公募概要

- 地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を公募
- 優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるものを選定

公募期間と選定の流れ

- 平成30年10月5日(金)～10月25日(木)

企画提案書の提出

各地方整備局等から推薦

企画提案の評価・選定
(有識者意見を踏まえ実施)

重点「道の駅」の選定

- 重点「道の駅」は全国で15箇所、
重点「道の駅」候補は全国で14箇所を選定

その他

- 計画的な企画検討を促進する観点から、今後は毎年、公募を実施することを予定

支援内容

<ハード的な支援>

- 道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、社会資本整備総合交付金(直轄国道以外)及び交通安全施設等整備事業(直轄国道)の重点配分等により国交省が支援

<ソフト的な支援>

- 自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制を構築。

選定にあたり優先的に評価する事項

- 重点「道の駅」候補からの企画提案
- 以下に関する企画提案
 - ・新たな観光拠点の形成(DMOとの連携、インバウンド観光)
 - ・風景街道・道守との連携
 - ・高速道路との連携
 - ・子育て応援